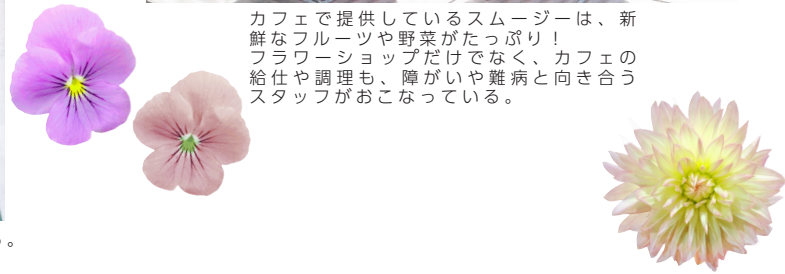




色とりどりの花や観葉植物でレイアウトされた店内に、訪れる人の心も癒してくれる。



提供しているスムージーは、新鮮なフルーツや野菜がたっぷり！カフェの調理も、おこなっている。



# 花は人の心を回復させる

## 足りているものを見つけ感謝する気持ちを持つこと

### Interview 一般社団法人ローランズプラス代表 福寿 満希さん

原宿駅から徒歩で路地を数本入ると、喧騒とは無縁な静かな住宅の街中に入る。その一角に、フラワーカフェ「LORANS」のサインボードが見える。

「今回は「花は人の心を回復させる。その花を通じて障がいや難病と向き合ふ人たちの雇用も生み出したい」と、二〇一七年にフラワーカフェ「LORANS」をオープンさせた福寿満希さんを紹介させていただきます。

「まず、フラワーカフェで障がい者雇用を積極的に行うことになった経緯や取り組み、視点などについて、お聞かせください。」  
▼福寿満希さん 大学生の時、特別支援学校教諭免許取得のため、支援学校で教育実習を行いました。その時に出会った子どもたちが、働くことに夢を持ち、今あるもの、今できることに懸命に取り組んでいる姿を見て、心を打たれ感動しました。しかし、現実的には一五%の生徒さんしか働くことができない壁が立ち塞がっていました。また、就職が叶っても、「シールド」や「箱の組み立て」などの単調な作業が多く、子どもたちが抱く「花屋さんになりたい」「ケーキ屋さんになりたい」という夢とはかけ離れたものでした。夢が叶わなかったら、夢を抱く障がいを持つ子どもたちの受け皿になる会社を作ろうと考えたのは、このことがきっかけです。そして、お金が回る仕組みの中に社会事業を組み込む「社会事業」でしたが、ビジネスのことが分らないため、いったん就職し、経験を重ねました。

大学生時代に特別支援学校教諭の免許状を取得するため、特別支援学校で教育実習に就いた時、通学する子どもたちの今あるものに懸命に取り組む姿に感動した。しかし、その夢の前には「働かない」という現実が立ちはだかる。そのころ福寿さんのその後を大きく動かした。福寿さんはその状況を「克服したのか、現在の事業に医療・歯科医療がどう結びついていくのか、などを伺った。

「私自身もプロリストとしてLORANSに学びに出たり、今でもイベント時を中心に一緒に現場に出ています。」  
「L&P」とはどのような仕組みですか。」  
▼福寿さん 企業が役割を分担しながら連携し、障がい者を共に雇用していくことのできることで、企業には障がい者雇用の法定雇用義務がありま。しかし、さまざまな理由で、特に中小企業の障がい者雇用が進まないという現状があります。そこで、ある企業が自社単独で障がい者雇用を進めるのではなく、中小企業は共同で運営する組織「L&P」に一定の業務発注(フラワーアレンジメントやフラワーギフト)を行うことで、中小企業はそれぞれに応じた障がい者を雇用したのみならず、設立して二年目になります。参加企業が増えています。全国初の取り組みもあって、一つひとつが手探りの状態で、設立準備期間には二、三年かかりました。新しい雇用の方を提案していくという意味では、まだまだハードルはあります。ですが、本当に進みながら変えながらという

「これまでお仕事に携わった中で、心の支えになった言葉はありますか。」  
▼福寿さん 「足を知る」でしようか。私と世代で働いている人、すこしスピードで成長している人がいます。しかし、上を見過ぎてしまうと見合っただけです。自分を見合っスピードが大切です。大事なことは、足りているものを見つけて、感謝する気持ちを持つことだと思います。

【プロフィール】  
福寿満希(ふくじゅ・みずき) 株式会社LORANS。代表取締役。1989年、石川県生まれ。2011年、順天堂大学卒業後、スポーツマネージメントの会社に就職。プロ野球選手のマネージメントの一環として選手の社会貢献活動の企画運営に関わる。2013年、株式会社LORANS。を設立。2016年、就労継続支援A型事業所を開設し、障がい者雇用をスタート。現在東京原宿や品川を中心に事業を展開し60名のスタッフのうち45名の障がいや難病当事者が活躍する。2019年、障がい者雇用を促進するため全国で初めて東京都が特例を活用し、東京都国家戦略特区とローランズプラスが連携し「障がい者の共同雇用」開始のため、ウイズダイバーシティ有責任事業組合を設立。障がい者雇用ハードルを感じる中小企業とチームとなり、新しい雇用創出のあり方を提案している。

技量を習得する場として、アカデミーを作ることを考えています。就職に必要な文章やビジネスマナーだけでなく、花の専門職として必要なスキルを身につけられるアカデミーにしたいと考えています。

「コロナ禍での対応についてお聞かせください。」  
▼福寿さん 新型コロナウイルス感染症の蔓延とともに、私たちも花の契約している結婚式の華やかな予約キャンセルが続きました。その中で、「キャンセルフラワー」を応援した人に届けるプロジェクトを立ち上げました。昨年、コロナ禍の中で、店舗の花の売り上げが伸び、特に五月九日の「母の日」には、例年の約十倍の売上がありました。そのほか「Flower Ring Project」という花の再資源化プロジェクトを進めており、廃棄予定のカーネーションをパルプ材料にして洋紙を作り、名刺にするなどの事業もおこなっています。

インタビューについてのご感想は、氏名と連絡先を明記のうえ、info@tokyo-sk.comへお寄せください。

過去のインタビューは、当協会HPからご覧いただけます。

▶LORANS. (ローランズ) へのお問い合わせ、アクセス等の詳細はHPをご覧ください  
株式会社LORANS.  
<https://www.floran-jp.com/index.html>

